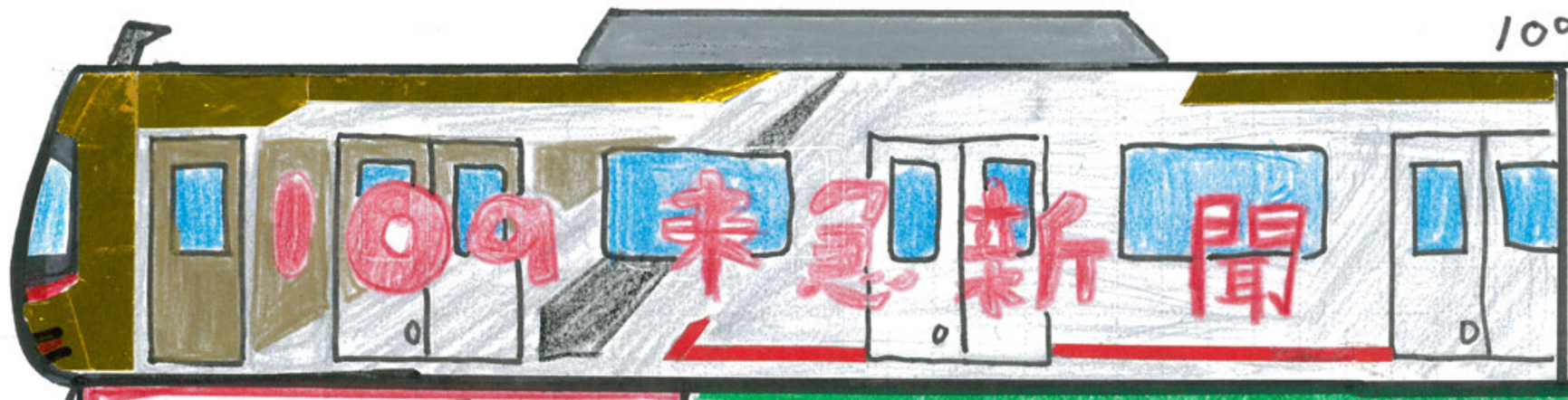
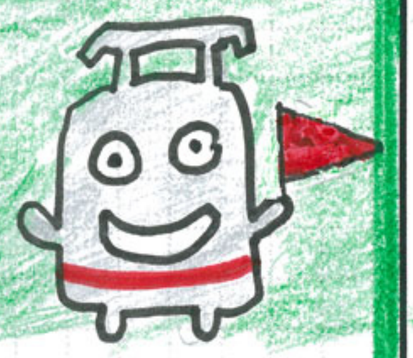


発行日
2013年
9月23日
月曜日

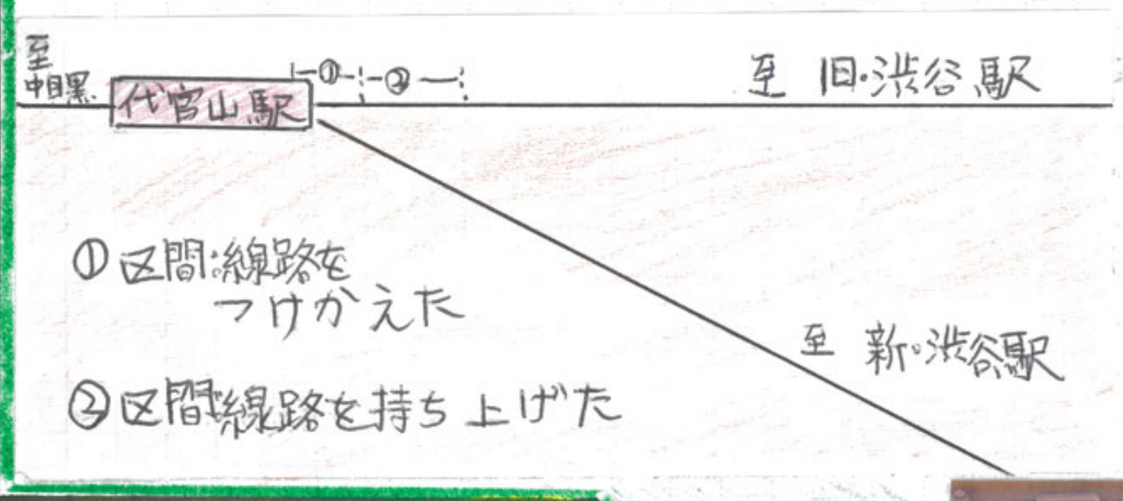
発行者
宇野豪真
東京都市大付属小5年

深夜の代官山 線路の引越工事



2013年3月16日の早朝、渋谷第一号踏切から代官山駅までの約273メートルの地下切替工事が、約120人の作業員で行われた。代官山駅周辺は建物が密集しているため、それまでの東横線の下に地下鉄副都心線につながる新しい線路を準備し、終電から始発までの4時間46分の短い時間で地下へつながる線路への切替が可能なストラム工法が用いられた。

この工事によって便利になった。みなとみらい線元町・中華街から西武線飯能、東武線森林公園までの区間を1本の列車で行けるようになった。また、渋谷から横浜までの時間が2分ちぢまり、特急列車などが8両から10両になったり、利用者にとって便利になった。下の写真は、ぼくが切替工事前の代官山駅でとったものだ。地上線のレールの下を見ると下部に地下線のレールがしかれているのがよく分かった。



地上2F渋谷駅 たくさんの思い出をありがとう

旧東横線渋谷駅を長い間見守ってきた半円形の屋根は、通称かまぼこ屋根として有名だった。

地上渋谷駅の線路におりることができた。ふだんは見ることのできない信号や安全そうちなどが目についた。電車の方向を定めるポイント(線路の分かれ目で車両を別の線に入れかえる仕かけ)が通過したポイントはそのままの状態に残っていた。

近くで見ると機械の仕組みが分かりおもしろい。

3月15日地上渋谷駅の4番線から出発した最終列車

利用者の安心安全を考えたバリアフリー ～だれでも使える鉄道へ～

すべての人が利用しやすい鉄道を目指している東急線で駅や車両でのバリアフリーへの取り組みを調べてみた。

駅には、ワイド改札機が設置されている。普通は、幅55センチメートルなのが幅90センチメートルに広げられている。

車いすの人や、ベビーカーを押している お母さんたちが利用しやすい。

各車両には、車いすスペースや、子供たちが利用しやすい低めのつり革やトイレなどもある。その他、駅にはホームと改札をつなぐエレベーターや点字運賃表もある。

右:55cm
左:90cm
(ワイド)

今年度中に大井町線の下神明駅のバリアフリー化が完了すると、東急線全駅がバリアフリー駅になる。

このように、いろいろな設備を整え、利用者への安心、安全を考えている。

乗りかえなしでラクラク川越へ

実際に直通列車に乗って都立大学から川越まで行ってみた。

以前は、渋谷で改札を出て、階だんをのぼったり、おりたりして東京メトロ副都心線かJR埼京線に乗りかえる必要があり、同じ渋谷駅内ひの移動なのに時間がかかり大変だった。

今はひとつの路線として結ばれ、直通列車一本で行かれるようになったので乗りかえの時間が短くなり楽になった。

直通運転が始まりみなとみらい線元町・中華街から最短8分となって川越駅では今年の春まつり(3月下旬～5月上旬)の来街客数が昨年比約3倍だったことがニュースで報じられていた。

東急車両
直通車(所沢にて)

編集後記

待ちに待った相互直通運転。今年はこの記事を新聞に書こうと決めていた。8年の歴史がある旧渋谷駅のイベントに参加して線路に下りて、ばらすとバラストの下にしいてある石はぼくの宝物だ。渋谷駅周辺は開発工事が始まる。鉄道と駅の発展をこれからも調べていきたい。

宝物のバラスト